

# 山岳祭

夜空にきらめく星たちの下、キャンプファイヤーが始まった。

日焼けした赤銅色の頬が、炎の揺らめきに反射して一層赤色を濃くしている。見慣れた顔、楽しそうな顔、この時にしか来ない懐かしい顔、仲間が集う山岳祭。

今や当会の恒例行事となった山岳祭は、創立間もない頃、ザイル祭として行われていた。ザイル祭は、月見山行先の宿営地で、ザイル等の山道具に感謝することが目的であった。そして供物を肴に酒宴が繰り広げられた。翌日は岩登り、沢遡行や縦走登山などを気の合う仲間と楽しんだ。

ザイル祭は、宿営地を定めず塩津温泉、横原川、安城農林演習林それから石巻山など転々と替えながら行われた。

1971(S46)年、当会は創立15年を迎えた。この時、すでに行事はザイル祭から会員の安全登山を祈願する山岳祭に変わっていた。この年の山岳祭は創立15周年ということで、多くの会員とOB会員の参加で大いに盛り上がった。

1973(S48)年、棚山高原に「棚山小舎」が開設された。この年から山岳祭は宿営地をこの地に定め、執り行われるようになった。

1976(S51)年、山岳祭は創立20周年記念式典とともに実施された。式典では神事、キャンプファイヤー、功労者表彰などのほか20周年記念宣言が読み上げられた。翌日には恒例となっていた山岳マラソン大会が行われた。

近年、山岳祭の象徴であったキャンプファイヤーは、環境への配慮から休止となっている。

今後、山岳祭の運営方法や行事内容は変わっていくだろうが、創立時より受け継がれてきた山への畏敬の念と愛する気持ちは、今後も変わらないだろう。



1963(S38)年 ザイル祭



1977(S52)年 神事を行う白井一司



1995(H7)年 キャンプファイヤー